
平成 26 年度 第三者評価結果 公表資料

特別養護老人ホーム

永栄園

【受審No.26-011】

公表内容

施設基本情報シート

外部評価結果

施設の見解

家族アンケート回収率 63.8%

一般社団法人神戸市老人福祉施設連盟

第三者評価制度評価委員会

神戸市老人福祉施設連盟 第三者評価【基本情報シート】

施設名	特別養護老人ホーム 永栄園	定員	100名
設置・運営(法人名)	社会福祉法人 神戸福生会	開設	昭和56年5月20日
所在地	〒651-2104 神戸市西区伊川谷町長坂800番地	TEL	078-974-4812
交通アクセス	地下鉄伊川谷駅より神姫バス57系統 池上2丁目下車徒歩3分	URL	http://www.kobe-fukuseikai.com/

■法人の事業体制

1 同一法人内での実施事業			
介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、(介護予防)特定施設入居者生活介護、(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)通所介護、(介護予防)訪問介護、(介護予防)小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、居宅介護支援、地域包括支援センター、生活支援事業			
2 介護・看護職員数等(短期入所併設の所は合算した数)			
●介護・看護職員1名に対する入所者	2.44	名	
●介護・看護職員平均勤続年数	4.9	年	
●介護・看護職員平均年齢	40.3	歳	
●人材確保と育成の方針			
採用は介護・福祉の専門的な学校を卒業した学生に加え、中途採用者や未経験者など幅広い人材の採用に努めています。採用後はチューター指導を行い、先輩職員が個別に指導・助言を行います。OJTと面談等により、社会人・専門職としての基礎を築きます。また、「自己成長」「専門職としての資質の向上」を支援する目標管理制度を導入しています。定期的に上司と面談を行い、目標をもった仕事を通じて、社会人として、社会福祉の専門家としての「自己成長」を支援しています。キャリアは介護職員からスタートしますが、そのまま介護職員として、または相談員として専門性を発揮する、資格を取得してケアマネージャーとして従事するなど、様々な機会が得られるキャリアアップ制度を整えています。			
3 施設の方針・理念			
1.利用者、家族のニーズの把握に努め、自己決定・自立支援を基本とする。 2.利用者本位のサービス提供を基本とする。 3.利用者、家族の生活の全体像把握に努め、その中でわれわれの提供するサービスの担う役割と有効性を常に検証する。 4.利用者の生活の個別性を尊重し、個別処遇を基本とする。			
4 施設の特徴			
福生会は1951年(昭和26年)に全国で初めて社会福祉法人を取得した第1号の社会福祉法人です。永栄園は昭和56年に設立し、特別養護老人ホームとしては老舗です。診療所を併設し、介護と医療の機能分担と連携を図りながらサービスの質の向上を目指しています。また、食事もなるべく冷凍食品を使わず施設で手作りをしています。			
5 ボランティア・研修・実習生の受け入れ			
ボランティアは自治会などの地域住民や学生を中心に、喫茶、音楽、理容、余暇等のレクリエーションと、行事の催しや運営として受け入れを行っています。実習生は近隣大学を中心に、社会福祉士や理学療法士などの資格取得に向けた実習を受け入れています。			
6 地域との連携(施設開放、協同行事等)			
毎年の納涼大会や敬老祝賀会は、近隣の高校や自治会の協力を得ながら開催し、地域住民にも開放しています。幼稚園児の施設訪問も毎年実施しています。また、施設の会議室を開放し、自治会の定期的な会合に利用していただいています。			
7 居室形態			
●種類	<input checked="" type="checkbox"/> 従来型	<input type="checkbox"/> 個室ユニット型	
●料金	居住費	320円	食費 1380円
8 家族との協力(家族会・行事への参加等)			
年1回、敬老祝賀会の開催に合わせて家族懇談会を開催しています。納涼大会や敬老祝賀会等の行事は、ご家族に案内を行い、参加を呼び掛けています。			

■サービス提供体制

入所条件	要介護認定で要介護1~5と認定され、常時介護を必要とし、ご自宅において介護を受けることが困難な方。神戸市入所指針に基づき、毎月の入所検討委員会で入所検討を行っています。
施設内自由度	非常口にはセンサーを設置していますが、玄関およびエレベーターは施錠をしていません。危険のない範囲は自由に行動していただいています。そのため、事務所を含め、全職員で利用者の見守りを行い、安全性の向上に努めています。敷地内は禁煙ですが、飲酒に関しては健康上の問題がなければ可能です。
居室の環境	4人部屋19室、2人部屋11室、1人部屋2室、1人当たりの最小床面積は8.50㎡です。4人部屋および2人部屋はカーテン等により間仕切りを行い、プライバシーの確保に努めています。また、静養室を準備し、ターミナルケアや感染症の発生時に使用しています。
外出などの自由	外出や外泊は申し出をいただければ、自由に行っていただけます。外出先への送迎は、可能な範囲は施設で対応しています。
身体拘束・虐待防止対策	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回委員会を開催しています。緊急やむを得ない場合に実施した身体拘束については、廃止に向けた取り組みを継続し、身体拘束を廃止していきます。虐待防止研修は全職員を対象として、年1回以上実施しています。
食事	食事は施設が直営で調理しています。管理栄養士の立てる献立表により、栄養並びにご利用者の身体の状況および嗜好を考慮した食事を提供しています。3ヶ月毎に栄養ケア計画書を作成(変更)し、利用者または家族の同意を得ています。
入浴	入浴又は清拭を週2回行っています。重度の障害をお持ちでも機械浴槽を使用して、入浴することができるよう設備を整えています。
排泄ケア	排泄の自立を促すため、ご利用者の身体能力を最大限活用した24時間のトイレ介助等の援助を行っています。定時の排泄介助だけでなく、個別の状態に合わせて介助を行っています。
医療体制	併設の診療所に勤務する医師や看護職員が、健康管理を行っており、協力医療機関の伊川谷病院、協力歯科医療機関の松本歯科医院と連携しながら必要に応じて外部の受診に対応しています。
ターミナルケアの実施	<input checked="" type="checkbox"/> 積極的に行う <input type="checkbox"/> 行う <input type="checkbox"/> 行わない 看取り介護の指針を策定しています。入所時の意思確認を含め、ターミナルケアの提供体制を整え、希望に応じて実施しています。
認知症ケア	月2回、精神科医による診察を行っています。また、個別の状態をより深く理解するため、個人担当制を導入しています。従来型の施設ですが、ユニット毎の単位に分け、ユニットリーダーと職員を配置し、認知症利用者の理解に努めています。
アクティビティ	季節行事として初詣、節分、ひな祭り、花見、七夕、納涼大会、敬老祝賀会、クリスマス、餅つきを開催しています。レクリエーションは喫茶(月3回)、リハビリ(月3回)、作業療法(月3回)、法話(月2回)、誕生会(月1回)、音楽療法(月1回)、クラフトクラブ(月1回)、ドッグセラピー(2ヶ月に1回)、衣類販売(年8回)を行っています。

特別養護老人ホーム 永栄園

総合評価

- ◎ 法人本部の人事委員会、サービス向上委員会がうまく機能し、当施設においても、安全管理委員会や感染症対策委員会をはじめとした各種委員会、責任者会議を頂点とした各会議と毎日ミーティングなど滞りなく実施されている。
- ◎ 危機管理マニュアル等のマニュアルや諸規定なども完備され、今回の調査の範囲ではハイレベルの評価になっていると思われる。
- ◎ 古い施設ゆえ、4人部屋やターミナルケアにかかる葬儀場など入居者の需要に応じられる体制をとっている。同様に医務室が併設され、うまく稼働しているように見受けられた。
- ◎ 地域包括支援センターも地域住民に親しまれているとのこと。

特筆すべき項目・取り組み

- ◎ 施設長が同族法人の役員と言うことで何でも思い切った手が打てるのではないかと、いい面が出ている。
- ◎ ターミナルケア、胃瘻の生活記録のデータベースが積み上がっている。
- ◎ 職員との面談では会議等の風通しの良さが感じられ、かなりの提案が実施されている。
- ◎ 明石漁港からの直接仕入れで食事に工夫している。

改善が必要な項目・ポイント

- ◎ 家族の意向調査や連絡事項など栄養サービス計画のアンケート欄に頼りすぎのきらいがある。
- ◎ 人事制度も整っており風通しの良さが感じられたが、退職者が多いように感じられた（一過性？）。従業員定着のための工夫必要。
- ◎ ハード面の古さは否めないなので、この対応策を常に考えておく必要がある。

外部評価結果に対する施設の見解

この度、当施設が神戸市老人福祉施設連盟第三者評価を受審し、訪問調査員から総合的な所見を頂きました。頂きました所見を当施設で検討を行った結果は以下の通りです。

指摘頂きました点への対応のみならず、人材育成、安定した経営、サービスの質の向上をめざし奮闘していくこととします。

施設名 特別養護老人ホーム 永栄園

記入者 施設長

当施設の見解

評価を得られた法人及び施設での委員会制度、各種会議の開催、マニュアル等諸規定の完備、またターミナルケアの実践や医療との連携については、引き続き取り組みを継続していくことでサービスの質向上に努めていきます。

今後も施設として求められる介護・医療面での重度化への対応と地域との連携については、積極的に役割を果たしていきたいと考えます。

改善点として挙げられました従業員の定着ですが、このような評価となった理由は分かりませんが、退職者が特に多いことはなく、常に基準を上回る職員を配置しています。これからも人事制度や研修体制を充実させていくことで、より一層職員の資質向上と安定を図ります。また、ハード面の古さについては、計画に基づき適切な時期に設備を改善していきます。